令和７年度全国学力状況調査より

本年度、６年生において実施された調査の結果（国語科・算数科・理科・学習や日常生活に関わる質問）より、その成果と課題等については、教職員で共通理解を図ってきました。

今回、国語科・算数科・理科における本校のおおまかな傾向についてお知らせします。

【国語科】

本校の国語科の正答率は、県および全国の平均正答率を上回りました。

特に、無回答率が県や全国平均を下回り、最後まで粘り強く取り組む姿がみられました。

また、本校の課題として挙げていた「書く力」ですが、今年度も昨年度と同様、“書くこと”を問う領域や記述式の問題においても高い正答率でありました。

これは、教師がゴール（書き方の手本）を示して児童に見通しをもたせたり、児童の書く活動をもとに交流する活動を組み合わせ、自己表現を再構築させる活動を取り入れたりしてきた成果だと考えます。

弱点としては、文章の構成の工夫を読み取ることがみられました。日常のチラシでは、日時や場所、活動の目的等を箇条書きで分かりやすく書かれていたり、一目で分かるキャッチコピー等の工夫が盛り込まれています。国語科の教材や学校で配られるチラシを参考にして、文章の構成の工夫が自覚できるようにしていきたいと思います。

今後も継続して、国語科の力を向上させていきます。

【算数科】

本校の算数科の正答率は、県や全国の平均正答率を上回りました。

特に、「知識・技能」の領域の問題については、良好な結果となり、基本的な計算問題や用語の理解などの定着が図れていることがわかりました。

また、算数科全体を通して無回答率が低かったことは、これまでの日々の取組の成果が得られたと感じています。今後も、基本的な計算問題や用語の理解に取り組んだり、立式や計算の方法について自分の考えを書く時間を意図的に設けたりしながら、基礎学力のさらなる向上を目指していきます。

一方、「変化と関係」の領域では、正答率が少し低い傾向がみられました。

今後の学習指導にあたっては、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるようにしたり、伴って変わる２つの数量の関係に着目し、単位量あたりの大きさを用いて比べたりすることができるようにしたりして、考察する力、説明する力を高めていきます。

【理科】

本校の理科の正答率は、県や全国の平均正答率を上回りました。

特に、「思考・判断・表現」の領域の問題については、良好な結果となり、基本的な知識・技能を基にして、与えられた条件下での実験の結果を導くことができていることがわかりました。

これは、教師が実験活動を大切にして、実験の予想から考察の過程を大切にして指導してきた成果だと考えます。

また、理科全体を通して無回答率が低い結果となりました。学んだことを振り返る時間を丁寧に取ることで学習したことが児童の確かな学びとして積みあがっているのだと感じます。

今後も、実験等の体験的な活動を通して、実感のある学びを積み上げていけるよう指導してまいります。